

2023
令和5年1月18日
第29号

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

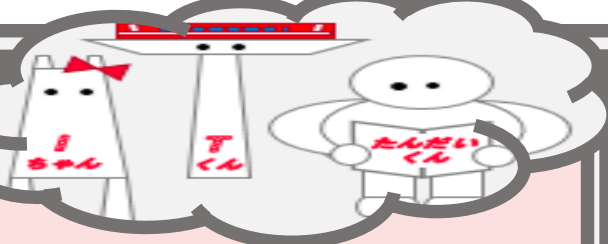
IT短大VIEW!



1 卒論の中間発表スタート



※MAS (Multi-Agent System) : 人をエージェントとし、その行動ルールとエージェント同士の相互作用をモデル化しシミュレーションする。



12月にスタートした卒業研究の中間発表が行われています。情報システム科2年の田村太陽さん(鹿島高卒)は、「MAS※を利用したスポーツ観戦における交通状況のシミュレーション」について発表していました。カシマサッカースタジアム周辺の駐車場情報を入力し、リアルに研究を進めたいと話していました。

4 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加えて「社会人基礎力」の向上のために、新聞スクラップを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となるものです。

＜記事＞ 読売新聞(2022年12月6日)
「IT人材育成へ交流会」

◇要約

●三村航芽さん(水戸商高卒)
本県のIT人材育成に向け、県立産業技術短期大学校は5日、DXに取り組む地域企業20社と、同校の学生や県内の高校生ら約100人による交流会を開いた。また、仮想空間「メタバース」を活用した。

◇感想

●三木悠矢さん(水戸葵陵高卒)
今回の経験を通して、各企業の特色や環境、どのような人材を求めているのかなどを知ることができた。
殆どの企業は向上心と主体性を重要視していることが分かった。あと1年と少しで向上心を持って主体的に行動していきたい。

●矢口裕貴さん(石岡二高卒)
交流会に参加し様々な企業の方々とは話し合うことで、就職に対する考えや意識が変わりました。

企業毎でITの活用の仕方は様々で、自分の知らないIT技術の使い方を知ることができるなどとても有意義な時間となりました。

●三村航芽さん(水戸商高卒)
見出しが10文字で、内容が上手くまとめられていて改めて新聞記事はすごいと実感した。

今回のような学生と企業との交流は、視野を広げたり、社会人としての意識を持つためにも必要なことだと思った。

●高橋亮介さん(勝田工高卒)
本校の行事に多くの地域企業が参加頂けたのは、それだけIT人材が求められているのだと実感した。

就職活動がもうすぐなので、自分が何をやりたいか、何に向いているのかを調べ、企業を決めていきたい。



2 演習で技術を高める



実習風景



情報システムコース1年生の「ネットワーク実習」では、パソコンのネットワーク構築演習が行われていました。指導された日熊啓介講師は「実機操作が重要」と話されていました。
受講した大津光さん(水戸商高卒)は「実際にルーターやスイッチを設定することで、確認することができました」と話していました。

3 応援メッセージ!

県立水戸第三高等学校

県立取手第二高等学校



滑川雅之 校長

1926年創立の伝統校で、「叡智・清純・自彊」を校訓としています。滑川雅之校長からは「三高プライドで、未来の社会を担え」と卒業生に温かい応援を頂きました。



廣瀬久美子 校長

大正14年創立の伝統校で、甲子園での全国優勝校です。廣瀬久美子校長は「社会人として必要な資質能力とITスキルをバランスよく使いこなして」とメッセージを頂きました。

